



# お薦めの一冊



## 『確定拠出年金の教科書』

山崎 元 (著)

[出版社] 日本実業出版社

[発売日] 2016/6/9

[単行本] 240ページ

[価格] 1,540円 (税込)

[ISBN-13] 978-4534053787

[推薦人] YN氏 (40代・男性・神奈川県)、運営管理機関勤務、1級DCプランナー、CFP、FP1級

[推薦文] DC業務の全体と運用についてとても分かりやすく解説しています。特に運用に関しては分散投資の説明になりがちですが、そもそもDCが資産全体でどのくらいの割合を占めるのかというアセットアロケーションを踏まえた上での話になっています。DC以外の資産がたくさんある方なら、DCではリスク100%のみでもよいということが明確に書かれています。「運用をDCだけで考えても意味ないですよ」ということを丁寧にアドバイスしてくれています。



## 『ちょっと気になる社会保障 V3』

権丈 善一 (著)

[出版社] 勁草書房；第3版

[発売日] 2020/2/15

[単行本] 315ページ

[価格] 2,420円 (税込)

[ISBN-13] 978-4326701124

[推薦人] IF氏 (40代・女性・神奈川県)、1級DCプランナー、社会保険労務士

[推薦文] 年金への理解が深まった一冊として、本書を推薦いたします。データを正しく把握し、論理的に思考しながら、公的年金が保険であるということや、積立方式と賦課方式の仕組みなど、社会保障制度としての公的年金を根本から分かりやすく学び直すことができ、理解がとても深まる一冊です。



## 『“税金ゼロ”の資産運用革命 つみたてNISA、イデコで超効率投資』

田村 正之 (著)

[出版社] 日本経済新聞出版

[発売日] 2018/1/26

[単行本 (ソフトカバー)] 272ページ

[価格] 1,540円 (税込)

[ISBN-13] 978-4532357603

[推薦人] SY氏 (50代・男性・東京都)、1級DCプランナー

[推薦文] 著者の田村氏は年金・資産運用への理解が深く、本書でもiDeCoや公的年金についての説明がとても分かりやすく書かれています。

私には特に会社を退職する方のパターンによる退職所得控除の考え方がとても参考になりました。



## 『新版 バブルの物語 人々はなぜ「熱狂」を繰り返すのか』

ジョン・ケネス・ガルブレイス (著)、鈴木 哲太郎 (翻訳)

[出版社] ダイヤモンド社；新版

[発売日] 2008/12/19

[単行本] 173ページ

[価格] 1,650円 (税込)

[ISBN-13] 978-447800792

[推薦人] YO氏 (40代・男性・東京都)、金融機関勤務、1級DCプランナー

[推薦文] バブルは繰り返される。バブルは、投資を行う者にとって気になる存在。今は、バブルか否か。本書は20年前に書かれた書籍ではありますが、極めて含蓄のあるフレーズが登場し、「過去」から「本質」を学ぶことの大切さを教えてくれます。なお、世の中の人々がバブルを感じると本書が売れ出す傾向にあるようで、実際にリーマン・ショック前には本書 (古本) が高値で取引されていました。さて、皆さんは、今、本書を購入されますか。